



空白のメソポタミア
《空白シリーズ⑦》
荒巻義雄
祥伝社（新書）
（3/30刊・¥690）

宇宙菌に犯され、最終段階へと進む主人公
新沢は、タイムトリップにより、当時小アジアとの貿易基地だった、西暦五二年の南インドの都市マドゥライに旅する。ここで、彼はイエスの足跡を知る。やがて、同年のアレキサンドリアに至り、一枚の銀貨を手にするが……。

空白シリーズ第七作。物語は、前回を継いで南インドにはじまり、メソポタミア（古代バビロン）へと連なる展開を見せる。ただ、お話の起伏自体は極めて少なく、キリストの足跡（インドから中国、日本への道）、超古代文明ムー、レムリア、アトランチスと、メソポタミアの古代文明との連関が、淡々と語られるのみである。もはや、現世レベルの事件は、物語の中心から外れており、これまでシリーズに登場した人物や出来事が、あらためて対応関係を持ちはじめている。さまざまに資料に裏付けられたシリーズではある。けれど、この世界は、もはや幻想の中にある。現実とは一線を画しつつあるように思える。

シリーズはもう終盤を迎えており、超古代の秘密を隠すピラミッドの謎は、次巻で解決されるといふ。